

第1回総合戦略等策定懇話会(H27.7.10)での主な意見【会議の場で回答済の質問を除く】

No.	意見者	分類	意見概要
1	菅野委員	八千代市への一貫した 転出超過の動き	近隣他市とのやり取りの中で、習志野市から八千代市に向けてはずっと、開発の有無とは限らずに転出超過が続いているということが、他市と比べて特徴なのかなと思ったので、その辺も何か一つのヒントになるのではないかな。ぜひ調査する上で、八千代市だけは特徴的な動きをしているので、お調べいただきたい。
2	小林委員	広域連携の推進	・全体的な中でキーワードとして重要だと思っているのは連携だと思う。民間との連携もそうであるし、他の自治体との連携もあると考える。特に役所が何かやるときは自分の権限の及ぶ範囲の中で考えがちだが、そもそも今どき一つの都道府県の中で収まることも少なくなっている上に、さらに基礎自治体の中だけで完結させることはやはり難しいと思う。まして16万人前後の習志野市は自分のところだけで何か完結しようと思うと難しいと思う。もっと広域にいろいろな分野で連携するということを考えたほうがよいのではないかな。 ・役所はどうしても自分の権限の中で物事を収めようとしがちだが、なるべく手を広げ、状況は隣県の他市も同様なので、連携というのをもっと広く考えたほうが魅力のある計画になるのではないかな。
3	布川委員	広域連携の推進	「習志野ブランド」、習志野といえば何か、と言われると、皆さんで思うもの、出てくるものが違うと思う。多分、今回こういったバックグラウンドの違う皆さんの、交流とか意見をくみ取って、どういった考え、どういった視点があるのかということも考えていったらいいのかな、と思う。内容としてすごく良いと思うところとか。例えば交流とか地域連携が大事ということもあると思う。連携するのが大事というよりも、何を連携すればいいのかということをしっかり考えた上でやらないと、結局ただいろいろと連携しましょう、と握手しただけの内容となってしまう。例えば、しごと創生は国の政策でやりましょう、という背景が確かあると思うが、自主性を持って地方公共団体が考えて、自分たちでやっていくためにどうすればいいか、ということであって、国のパッケージの中を見ると、周辺地域の、例えば船橋市といったところと連携してどういことができる、ということまで考えろというパッケージはあまりなかなか入っていないと思う。もしかしたら習志野の独自性がある、仕事ビジョンを作るとしたら、周辺地域と連携するとどういことができるかとか、習志野市の中のデータ、そういう入ったり出たりするところ以外にも、周辺地域と連携したらどういことができるか、ということまで踏み込めたら、より今後も政策としても、国の政策レベルで連携というのを、参考にしていくと思うので、そこで使われていけたらいい。
4	師橋委員	若者の市内定着・定住	5ページの「基本目標②」の「大学生が」というところで、学生目線でお話しさせていただければと思う。市外から通学してくる学生であると、大学の校舎に入って授業を受けて帰っていくということで、ほとんど習志野市を素通りしてしまうような感じである。食事なども学食が充実しているので、まちの食堂に行くようなこともない。地方出身の学生で習志野市に生活の拠点を構えて大学に通って来るような学生が、進路を、就職を首都圏に構えた場合に、その学生たちが例えばアパートとか家賃が安いとか、そういった利便性を考えてそのまま住み続ける。それから、もうちょっと長い時間、数年生活してもらって、結婚あるいは子育てまで考えたときに、本当に習志野市が魅力のあるまちだというような、生活に便利だとか、そういったまちになっていけるのか、というようなことをもう少し盛り込んで、あるいはそういったことも可能にできればよい。
5	田村副会長	商店街の活性化	地元が大久保だが、あれだけ乗降客数があって、大学生も通学しているのに、商店街はシャッター街という現実があったりすることは、本当に考える余地というか、取り組まなければいけないと思う。

No.	意見者	分類	意見概要
6	田村 副会長	婚活支援	商工会議所の女性会で今、合言葉が「おせっかいおばさんになりましょう」ということである。若い方がなかなか結婚しないということ、少しでも支援しようということで、来週も婚活のセミナー、ご本人だけではなく、息子さんや娘さんがなかなか結婚しないけれども、そういう話を出すだけで拒絶されてしまう、という方々など、周りにそういう人がたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々に何かヒントをもらっていただく、というセミナーを開催する。そうしたところも市民レベルで、本当におばちゃんたちの力から何かできれば、ということをやっている。また、うちの娘や息子を見ると、結婚する、というところから、今の若い方はずっと不景気な時代が続いたということで、現実的な人が多い。何か計画を立てて、自分がこのレベルまでいくまでは付き合っているが結婚しないとか。子どもを産むのはこの年になって、何か一つ成し遂げた後にならないと子どもは作らないとか、そういう方が多い。孫が生まれるときも、何月に生まれると来年の保育園に入る時期がこの時期なので、それに合わせて、といったことも友達同士で話し合っ、そういう考えの基で子作りもしているという、驚きの、私たちの古い時代からはちょっと考えられないようなことがあったりする。そういうことも理解しながら、紙の上のことだけでなく、身近な意見を取り入れながらというのも大切ではないかと思う。
7	田村 副会長	未来都市づくり、 人的資源の掘り 起し	柏市へ研修に行ったが、それこそ産官学一体となって、大きな商業施設が中心にあり、東京大学があり、企業が連携して、県などの力もかなり入っているのかと思う。2020年、2030年に向けて具体的な未来都市作りをしている。習志野市も大学があったり、割と条件はそろっているはずだが、先を越されたかな、財源の違いなのかな、と悔しい思いをしたことがある。そういった市民レベルであったり、若い人の力だったり、一人ひとりの人的資源の掘り起こしということがとても大事なのではないかなと思う。
8	寺木委員	ビジョンから総合 戦略への繋がり・ 対応	ビジョンと戦略とを別々に切ってしまうと、一つの課題の中で二つ作る意味がないので連携させる。ビジョンの中で挙げられた課題が戦略の中で解決されるのが理想的なストーリーになる。ここまでの課題で出てきているのが、ビジョンのほうで25ページの4項目。たまたま4つなので、これが戦略の中の基本方針の4つに該当するように見えてしまう。4項目の課題が戦略の中の4つの基本戦略で解決するかというと、あまり1対1には対応していない。現段階ではまだ途中だが、これがビジョンの最後のところで基本戦略と対応するような形で課題がまとめられ、それが★印で示されている、個々の基本目標の中の、それぞれの具体的な施策で解決できる、という話になっていくべき。
9	寺木委員	KPIの設定	KPIがそれぞれの課題を基本戦略が解決する上での数値目標にならなくてはいけない。なおかつ毎年評価することは、すごく難しいと思う。効果が何年もかかって結果が出てくるようなものばかりだと思うので、その辺りも含めて次回なり次々回なりお示しいただけると、もっと具体的な意見が出てくるのかなと思う。

第1回総合戦略等策定懇話会(H27.7.10)後に提出された主な意見

No.	意見者	分類	意見概要
1	朝倉委員	総合戦略について【全体】	「浅く広く」？か「狭く深く」か？ あるいはその両方か。 第一回で提案された総合戦略は、「習志野市」という言葉を除いてしまうと、どこの市の戦略として提案されてもあまり違和感がないようなものであったように思います。例えば、資料3の各基本目標の横に掲げられている政策メニューの多くは、習志野市でもこれまでも何らかの形で推進されてきた施策であると思われるため、今回の戦略を策定することで大きく飛躍できるような感じられません。「浅く広く」の総花的な対応を脱し、「狭く深く」の一点突破を狙うような戦略の立案が求められると考えます。もちろん、国の要求とのすり合わせもあると思いますので、総合戦略ではある程度総花的であったとしても、京丹後市のようなアクションプランを別途策定する、あるいは那須塩原市や牧之原市のような重点施策・重点プロジェクトを明確に打ち出していくことが重要ではないかと考えます。 次回の委員会時には、アクションプランや重点プロジェクトなどを扱うのか扱わないのか、扱うのならばどのように扱う予定なのかについて触れていただければと思います。
2	朝倉委員	総合戦略について【全体】	「あいまい語」の積極的な排除 上記1に関連しますが、「高付加価値ビジネス」「魅力あるいきいきと働ける場」「習志野ブランド」など、口当たりは良いが中身があいまいな言葉についてはできるだけ習志野市の実情を踏まえ具体的な内容を定義していく必要があると考えます。
3	朝倉委員	総合戦略について【全体】	費用対効果のチェック 他市の戦略を見ても「* * 事業の拡大」「* * 支援の充実」など、既存の政策メニューの拡充に留まっているものが散見されます。このような場合に、既存政策がどの程度効果的であったのか「費用対効果」を踏まえた上での拡充を検討すべきと考えます。
4	朝倉委員	総合戦略について【職住近接に向けた取組】	職住近接に向けた取り組み 今回の戦略のキーコンセプトの一つに「職住近接」があると考えます。職住近接による通勤時間の短縮は、子育て時間の充実、地域内活動の充実、地域内消費活動の充実などなど、地域にとってはメリットが多く、今回の戦略にもなじむと考えられます。そこで、市役所も含めた市内事業者による「職住近接にむけた具体的な取り組み」を推進できる枠組みを作ってはいかががかと考えます。そのための第一弾として、職員の通勤時間調査と、「職住近接」にむけた意識調査などを行うことで、ポテンシャルを探ることができれば、と考えます。もしこのような調査を行うのであれば、習志野商工会議所様などとの連携の下、本研究室が調査実施や分析の点でご協力できると思います。
5	朝倉委員	総合戦略について	役所でできる「ベストプラクティス」の洗い出し 魅力的な「まち・ひと・しごと」事業の参考として、他市におけるベストプラクティスを洗い出していく作業も必要かと思えます。例えば国分寺市の公共調達条例では、公共調達における競争を価格だけでなく、当該事業者の「障害者雇用の取組み」「高齢者雇用の取組み」「男女平等及び男女共同参画への取組み」「ボランティア活動への参加又は取組み」「環境への配慮」「防犯及び防災並びに除雪への協力等」による地域社会への貢献なども含め判断しています。これに関連するような取り組みで目玉になるような施策・プロジェクトを市から提案できないでしょうか。
6	朝倉委員	総合戦略について【連携】	地域内連携から地域間連携へ 会議でも小林委員さんからご発言があったように、今回のような地域創生は「行政区」に閉じた発想よりも、地域間連携を前提として行った方が効果が高い点もあると考えます。このための県と市の連携強化、あるいは市同士の連携強化により、相互に戦略内に書きこんで行けるようなことが検討できないでしょうか。
7	古賀委員	懇話会について【進め方等】	本会議のゴールイメージがわかりません。 骨子案をもっと具体的にするのか？それとも①～④の内容を変えるまででいいのか？どこまで具体的なものを作ればいいのか？など。 また、会議場で意見もあったように、ビジョンの課題には答えた方がいいと思います。
8	古賀委員	総合戦略について【全体を通して】	3大学の記述以外、習志野らしさを感じませんでした。 「習志野市」の記述を、他の市に置き換えてもおかしくない内容だと思えます。

No.	意見者	分類	意見概要
9	古賀委員	総合戦略について 【基本目標①について】	「本市の持つ地域資源を最大限に…」とある、「地域資源」って何でしょうか？ むしろ資源がない市だと思っています。 また、企業数も少ないため、「市内企業とのマッチング推進」とありますが、これでは企業数の多い市と差別化出来ないのではないのでしょうか？ 「魅力ある企業の誘致」とあるように、習志野市は新幹線の玄関の東京駅(JR)、羽田空港(バス)、成田空港(京成)とどこも1本で1時間以内で通じています。 この交通利便性を活かして、地方と東京、もしくは海外を繋げる拠点となるよう、地方の企業のサテライトオフィスなどを誘致するのはどうでしょうか？ その拠点やサテライトオフィスで働く人材を市内の若者から発掘出来たらいいのではないかと思います。 また、例えば、京成津田沼駅前のわいがや商店街を、期間限定で、石川県のお店を入れて、プチ石川県を作り、成田空港へ向かう海外の方に降りてもらうなども面白いと思います。
10	古賀委員	総合戦略について 【基本目標②について】 【基本目標③について】	こちら「資源」に疑問があります。前提でも習志野は文教に力を入れて、習志野版ネウボラや、学校も力が入っているとありましたが。 市民として、そこの認識が全くありませんでした。習志野版ネウボラも初耳です。 学校についても公立幼稚園があることは評価されるのかもしれませんが、結局2年制のため定員割れがあり、私立幼稚園も数が少ない、また特に独自の特色があるようには思いません。小学校も魅力あるところがなく、我が家も市外の私立も検討しています。
11	古賀委員	総合戦略について 【基本目標②について】 【基本目標③について】	さらに、東京圏では田舎であるのに、公園が乏しいイメージです。 昨今は都内の方が、プレーパークなど、自然体験をメインにした公園づくりに力を入れています。 子育て世帯が習志野市を選ぶ理由は、ただ総武線等の沿線で買えるマンションや家がたまたま習志野市にあっただけ、船橋でもどちらでも気にしていないとも周りからは聞きます。 千葉市が現在、プレーパークに力を入れており、全区で実現するようですが、そのような何かしら子供向けの特徴を持つのがいいのではないかと思います。
12	古賀委員	総合戦略について 【基本目標②について】 【基本目標③について】	また、流山市のように、「母になるには」とキャッチコピーをつけているように、「2人目育てるなら、習志野市」のように、何か市独自の子育て支援があってもいいと思います。 財源的に難しいかもしれませんが、例えば、第一子への子育て優遇です。 以前、何かの記事にこれと呼びかけている議員さんのことが載ってありました。 結婚もしていない人からすると、第三子は遠すぎる。第一子が学費無料などの優遇があれば、第二子を産もうという気が生まれると思います。 学校で言うと、特色のある教育方針(たとえばバカロレアなど)を持つ、幼稚園、小学校があれば、教育意識の高い方で、都内に住むのは…と思っている方などを多く呼べるのではないのでしょうか？ また、おたかの森では、駅前広場で「そのママよる会」などママ同士を結びイベントなども積極的なイメージです。そういう動きも加速出来たらいいと思います。 ちなみに流山市は、その他、学童も民間で一つ面白いものがあり(小学生から経営を学ばせる)など、周りで千葉に引っ越しを考えている友人にはおすすめしてしまうくらいです。
13	古賀委員	人口ビジョンについて 【Aの若者世代における男性の大幅転入超過後の大幅の転出超過について】	就職後の家探しとしては、やはり職場までの通勤がラク+家賃が一番大きな要因になると思われます。 習志野市は、JR津田沼、京成津田沼、新習志野が都心へ出やすいトップ3だと思いますが、それぞれ単身者用のマンションが駅の近くにあまりないイメージです。 特に京成津田沼は特急停車駅なので、駅前の開発があれば、住みたい方は大勢いると思われます。(さらに京成津田沼が発展すれば、その先にある袖ヶ浦団地の価値も上がるのではないのでしょうか？)
14	古賀委員	人口ビジョンについて 【Aの若者世代における男性の大幅転入超過後の大幅の転出超過について】	また、学生時代から、地域と関わりがあり、地域の大人とのコミュニケーションが多ければ、その分、とどまる方も増えると思います。3大学とも理系です。例えば、市内に市民が使えるモノ作り拠点(3Dプリンターや、DIY関連などの工作系)があり、市民や大学生が一緒になって趣味のサークルやワークショップなどがあつたら、社会人になっても参加したいと思い、習志野市にとどまるケースもあると思います。
15	古賀委員	人口ビジョンについて 【Cの近年の東京への転出超過状況について】	私自身、共働きの時はいつかは都内へ引っ越し予定でした。なぜなら、仕事も都内、週末も都内で過ごすため、千葉に住んでるメリットがないからです。ただ私が仕事を辞め、出産後地域と関わる中で、習志野市に住もうという年月は増えましたが、最終的にはまだ都内への未練は捨てられません。 その理由は、やはり市内の魅力が乏しいからです。近年奏の杜の開発でやっと、駅前に大人向けのオシャレなレストラン等も出来てきましたが、まだまだご飯、服飾などのお店など、行きたいと思える場所がありません。その他のイベントでも興味があるのは、やはり都内(しかも山手線西側)です。 何か大人が楽しめる、おもしろい施設があればいいと思います。市民が運営出来れば、なおよいと思っています。(個人的には市内の有志を募って、どこかの助成金に応募して、まずは小規模ながら場所づくりをしたいなとも思っています)